

AKIRA Racing CNR3 テストレポート

2024/9/16

天候：晴れ / ドライ

気温：30°C

コース：筑波サーキット（茨城県）

10月開催予定のEV-GP最終筑波戦に向けて車両のセッティングやドライバーの経験値のため、筑波サーキットにてテスト走行2回目を実施しました。



今回のテストではドライバーとして飯田の他に、前回同様104号車をドライブ予定の関西学院大学自動車部の3名とトヨタのエンジニア4名。また今回新たに東京大学から2名が参加。

走行枠は午後2時から4時まで。冷却などいくつか改修が加えられた105号車（赤MIRAI）はセッティングのためのデータ収集のため飯田がドライブ。104号車（青MIRAI）は前回同様学生ドライバーの筑波サーキットの経験値向上と、燃料電池車でのスポーツドライビングに慣れるを中心としたテストを実施しました。

関西学院大学の3名は今回で2回目となるMIRAI+筑波サーキットのドライビングですが、まだまだ学ぶことが多い、走行前は東京大学の2名とともにトヨタのエンジニアからMIRAIの説明を受けます。



走行前の空気圧チェックや、ドライビングポジションのチェックなどエンジニアのアドバイスの下、学生たち自身で行います。



走行開始後、まずは 105 号車を飯田がドライブし、今回始めて参加する 2 名は同乗走行によりアドバイスを受けます。

その後 105 号車は学生 5 名が交代で走行。経験者である 3 名は少し慣れもあり、以前より少し攻めた走りが見られます。今回始めての 2 名は燃料電池車の特性に対して試行錯誤を繰り返しながら周回をこなしていきます。



今回のテストは前回よりも少し短い時間の走行でしたが、走行可能時間中はほぼインターバルなしで走行を行い、無事終了。10月のつくば最終戦に向け最終調整を行い、本戦に挑みます。



【東京大学 佐伯 / 水野】

車体やタイヤの性能がよく、サスペンションの路面に対する追従も不満を感じる点はありませんでした。低速域でのコツコツとした細かい入力は感じましたが、サーキットの速度域では全く影響しないと思います。車両の操作性は非常に優れており、コーナーリング時の安定性は特筆すべき点でした。今まで FR 車で経験したスピニ時恐怖とは無縁で、高速でのコーナー進入時にも安心感がありました。また、モーターがどれほど充電されているかをどこで確認すればいいかわからないまま走行してしまいました。燃料電池車特有の走行テクニックである、コーナー進入時のブレーキ時間延長によるモーター充電と、それに伴う立ち上がり時の加速性能向上に関しては、今回実践することができなかったので心残りがあります。次回の試乗機会があれば、この点に注意を払って走行してみたいです。

【関西学院大学 体育会自動車部 主将 田辺英孝】

8月に続き、ミライの走行機会を設けていただき、心より感謝申し上げます。

8月の初走行では、車に慣れることと、筑波サーキットという試合と同じコースに慣れるために、様々な走り方を学びました。

今回のテストでは、149号車における FC 車両ならではの走行方法を、トヨタの皆様からご指導いただきました。制御が効かない状態を保ちつつ、良いラップタイムを出すための最適な走行方法について考えながら走行しました。その結果、前回に比べて FC 自動車の「攻め方」について深く学ぶことができました。来月に行われる EVGP に出場するにあたり、大変重要な知見を得ることができた走行テストでした。